

7 輸送計画

(1) 基本的な考え方

愛知万博に訪れる 1500 万人の様々な来場形態に合わせたアクセスルートを確認する。観客が快適で円滑な来場ができ、目標入場者数を達成するため、以下の点を重点項目として新しい取り組みを積極的に導入する。

最適な輸送手段とアクセスルートの確保

来場者の動向にあわせた多様な輸送手段及び適切なルート設定と、十分な輸送能力を確保する。海外及び国内広域からのアクセス、愛知県内や中部圏からのアクセス、会場近隣からのアクセス等の態様を踏まえた観客輸送計画を構築する。

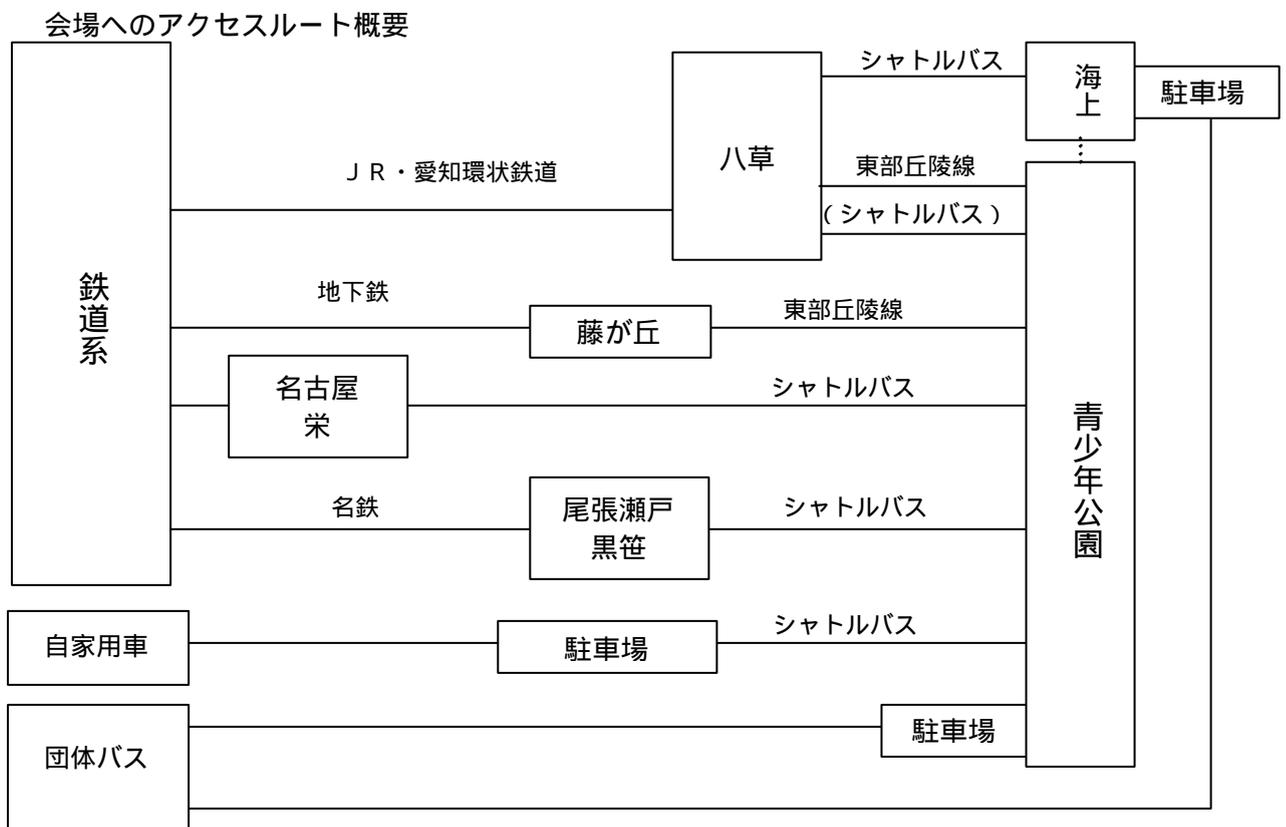
環境 / 地域への配慮

愛知万博のテーマを反映し、環境への負荷を軽減する輸送体系とそれを支える施設面・運営面の輸送システムを構築する。

交通安全施設の整備、ITS（高度道路交通システム）の活用等により 1500 万人の来場者による会場周辺の道路混雑や住民生活への影響を極力緩和する対策や交通安全対策を講じる。

ITSやITの導入による情報提供 / 移動空間の演出

最新のITS（高度道路交通システム）やIT（情報技術）と既存のネットワーク基盤の複合活用によるきめ細かい来場者に対する情報提供を実施する。来場、観覧、退場後を通じて楽しめる博覧会とすることを目的し、会場へのアクセス自体に演出性を持たせる。



注：()内は混雑時の対応

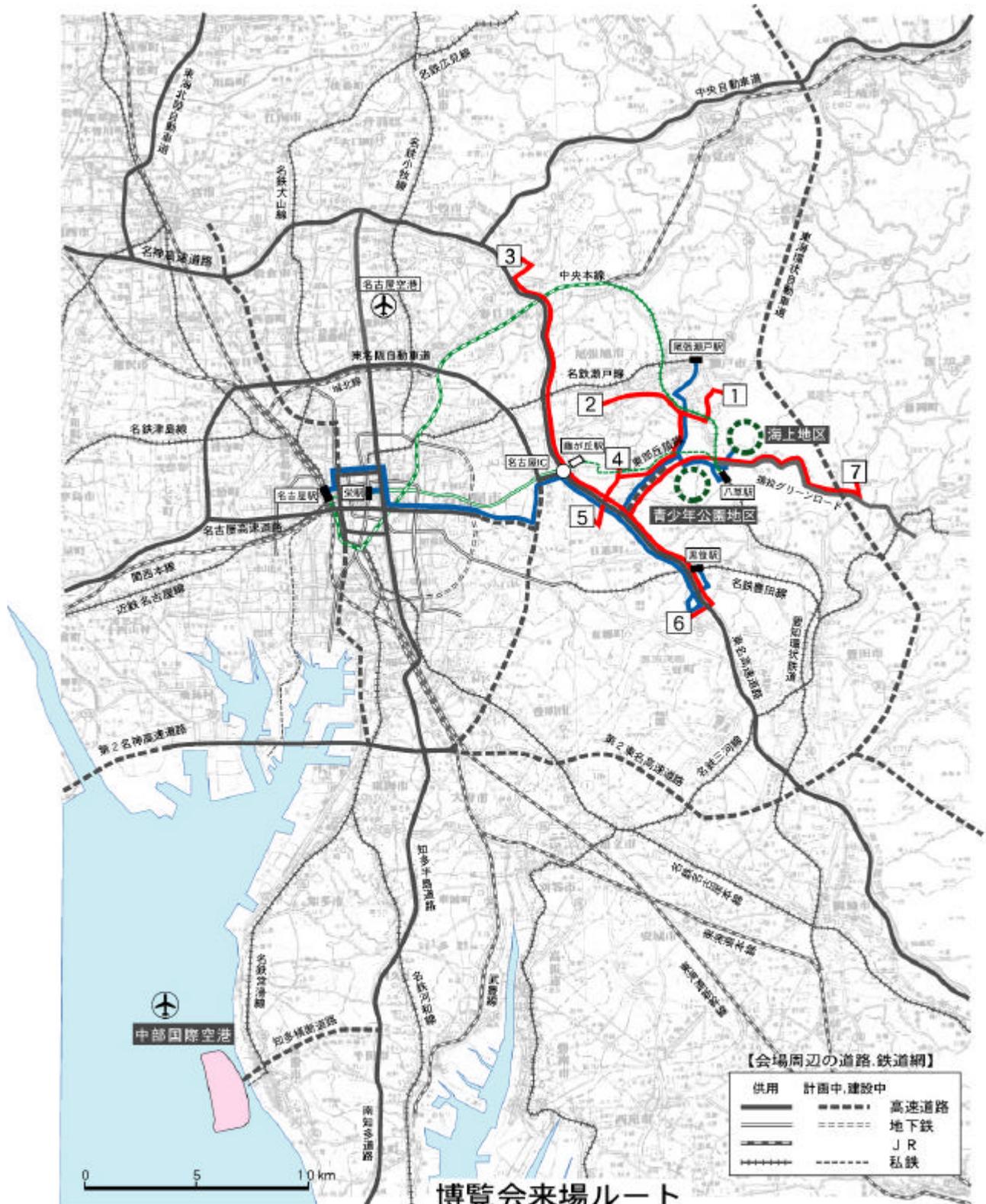
(2) 輸送手段及びアクセスルートの確保

- 1) 海外をはじめ、航空機を利用した来場の促進に向け、中部国際空港からは、鉄道経由でシャトルバス等を利用する、分かりやすく円滑なアクセス環境を整える。
- 2) 日本各地からの来場促進に向け、名古屋駅を中継点とする分かりやすく円滑なアクセス環境を整える。主要ルートとなるJR中央線からは、愛知万博でもっとも重要な結節点である愛知環状鉄道八草駅まで直通列車を運行する。
- 3) 県内及び近隣地域からの来場促進に向け、鉄道とシャトルバスを組み合わせた円滑なアクセス環境を整える。愛知環状鉄道や東部丘陵線の活用に加え、名古屋、栄、尾張瀬戸、黒笹、八草の各駅からシャトルバスを運行する（ステーション&ライド）。
- 4) 各アクセスルートのバランスのとれた利用を図るため、各種誘導施策を展開するとともに、主要駅等で適切なルートや混雑状況等の情報を提供する。
- 5) 交通事業者の協力を得て、周辺の主要都市や空港からの直行バスの臨時運行等を検討する。
- 6) 自家用車での来場については、方面別の来場者のルートや道路整備状況等を踏まえつつ、来場者に分かりやすい位置に駐車場を設置するとともに、交通安全施設、ITSを活用して道路や駐車場の状況に応じた適切な案内・誘導を行う。各駐車場からはシャトルバスを運行する（パーク&ライド）。
- 7) 団体バスでの来場については、会場に隣接した専用駐車場を確保し、団体バスの集中回避による来場者の平準化と効率的な運用の観点から予約制を原則とする。

アクセス手段別想定来場者数

鉄 道 系	八草経由	540 万人	(約 36%)
	藤が丘経由	230 万人	(約 15%)
	駅シャトル	110 万人	(約 8%)
	鉄道系計	880 万人	(約 59%)
道 路 系	自家用車	390 万人	(約 26%)
	団体バス	230 万人	(約 15%)
	道路系計	620 万人	(約 41%)
合 計		1,500 万人	(100%)

アクセスルート図



(3) 環境 / 地域への配慮

- 1) 環境への負荷の低減と周辺道路など地域への影響を緩和するため、公共交通機関の積極的な利用促進を図る。このため、愛知環状鉄道の増強や沿線環境への負荷が少ない東部丘陵線の活用を図る。
- 2) 公共交通機関による来場を促進する仕組みの導入を図る。
- 3) 周辺道路への負荷を軽減するためパーク＆ライド方式を採用する。全ての自家用車は会場から20分圏内を中心に設けた駐車場に誘導し、各駐車場からシャトルバスを運行する。駐車場は7カ所を計画するが、利用者の利便性や来場者の変動に応じた効率的な運用等の観点からさらに検討する。
- 4) シャトルバス等に低公害車を積極的に導入するとともに、主要駅や駐車場からのシャトルバスルートはできる限り自動車専用道路等の利用を図る。
- 5) 会場近隣からのアクセスを考慮して、コミュニティバス(市町村営バス)等のターミナル乗り入れやタクシー乗降場の設置、駐輪場の設置を検討する。また、自転車及び徒歩による来場者を考慮し、可能な限り歩車分離を行い安全性を確保する。
- 6) 周辺地域の交通の安全と円滑を確保するための交通安全施設の整備、ITSの活用等の対策を実施する。

(4) 来場者への情報提供 / 移動空間の演出

- 1) 空港や名古屋駅など交通拠点において、アクセスルートの情報提供のほか、博覧会内容やイベントなどの情報を提供する。
- 2) パソコン等を通じて自宅で博覧会や交通の情報を入手できるようにするほか、移動中の来場者に対しても、携帯電話、カーナビゲーションやラジオ放送等に情報を即時的に提供する。
- 3) シャトルバスに車両デザインを施したり、IT技術等を活用し、車内で楽しめる娯楽プログラムの提供を検討する。
- 4) 愛知環状鉄道への直通列車や東部丘陵線(HSST)の愛称を定め周知を図るとともに、ターミナルや車両等に博覧会を盛り上げるためのデザインを施すことも検討し、アクセスルート全般における演出性、話題性を高める。
- 5) 駐車場への誘導や駐車場の空き情報等をITS、ラジオ放送等を活用し即時的に提供するほか、来場者に分かりやすい誘導標識や注意標識等を設置する。